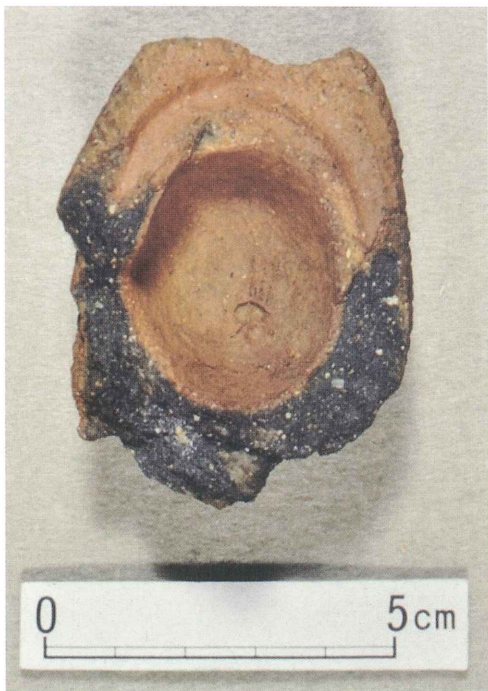


ダニ庄痕付碗状把手土器片



〔指定年月日〕昭和六二年三月三〇日  
〔種別〕有形文化財（考古資料）  
〔名称〕ダニ庄痕付碗状把手土器片  
〔点数〕一点  
〔所有者等〕杉並区教育委員会  
〔所在地等〕大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

## ダニ圧痕付碗状把手土器片

この土器片は勝坂式土器（深鉢形土器）口縁部に付された碗状把手で、縦六・一cm、横三・九cmの小片である。昭和五〇年（一九七五）に松ノ木遺跡から出土したものである。

土器片は碗状把手の内側（内面）に、血を吸って満腹状態の「チマダニ」を意識的に押し付けて焼成したものである。この圧痕が意識的に残されたものであることは、圧痕を詳細に観察すると、ダニの左足の付け根から三分の一ほどが粘土で被われていることが分かり、単にダニを押し付けたのみでなく、更にも上から粘土を貼り付けたと考えられることから明らかである。

「チマダニ」は一般に小動物に寄生し、夏から秋にかけて活動するといわれ、当時土器類は秋から冬にわたって焼かれたという説をこの土器片は裏づけるものとなっている。この種の圧痕土器片は他には中野僧御堂遺跡（千葉市）のヤケヤスデ、藤の台遺跡（町田市）のカツオブシムシが知られるのみである。

本資料はそれらと並ぶのみでなく、当時の土器作製時期、作製過程、作業環境などを推定させるに足る貴重なものである。

### 【文化財所在地】

